

# 「ERMS（電子リソース管理システム）の理解、 そして導入と活用」

【主催】図書館分科会

活動報告

日時：2023年6月12日（月）14:00 -15:30

場所：オンライン分科会

出席者：114名

## 1. 研究内容

図書館分科会主催の勉強会をオンライン方式で開催しました。

昨年（2022年）にサービス提供を開始された「電子リソースデータ共有サービス」について、国立情報学研究所（NII）様より最新の状況をご講演いただき、その後、佛教大学様より大学現場のお立場から「電子リソースデータ共有サービス」導入にあたって導入ポイント・効果メリット、留意事項などに関してご講演をいただきました。また、情報のご提供として富士通Japan株式会社より開発中の「国立情報学研究所（NII）様の電子リソース管理サービスのAPI対応」に関して紹介がありました。イベント後半はご講演を受けての質疑応答を行い、各大学図書館が「電子リソースデータ共有サービス」の導入に向けた理解を深めるとともに現場での活用について考えるきっかけが得られる場となりました。

（内容詳細については「3項概要レポート」をご参照下さい。）

## 2. スケジュール

14:00 分科会開始 開催挨拶

○ご講演（20分）

「電子リソースデータ共有サービスの現在の状況」

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム

三村 千明 様

○ご講演（30分）

「電子リソースデータ共有サービスにおける「ライセンス（JUSTICE）」の導入にあたって」

佛教大学図書館 専門員

飯野 勝則 様

○ご紹介（30分）

「電子リソースデータ共有サービス連携について」

富士通Japan株式会社 様

○意見交換・質疑応答

15:30 分科会終了 終わりの挨拶

### 3. 概要レポート

※当日の講演の様子（録画データ）は「CS研・IS研情報交換サイト <https://csis.ufinity.jp/shared>」に掲載（会員限定公開）予定。詳細は7頁「事務局より」をご参照下さい。

## 「ERMS（電子リソース管理システム）の理解、そして導入と活用」

私立大学キャンパスシステム研究会の本年度最初の分科会となる図書館システム分科会が、6月12日にオンラインで開催されました。昨年、国立情報学研究所（以下、NII）がサービス提供を開始した「電子リソースデータ共有サービス」について、NII様より最新の状況をご講演いただき、佛教大学様より大学図書館現場のお立場から、電子リソースデータ共有サービス導入にあたってのポイント、留意事項等に関してご講演いただきました。そして富士通Japan株式会社様よりERMSへの取り組みについてご紹介いただきました。

運営委員の共立女子大学の小國氏の進行で、まず分科会幹事の神田外語大学の吉野氏が開会の挨拶を述べ、その後講演に移りました。

### ■ご講演：

#### 「電子リソースデータ共有サービスの現在の状況」

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム  
三村 千明氏より

### ○ライセンス（JUSTICE）を提供開始。タイトルリスト（JUSTICE）は2023年度冬頃サービス公開予定

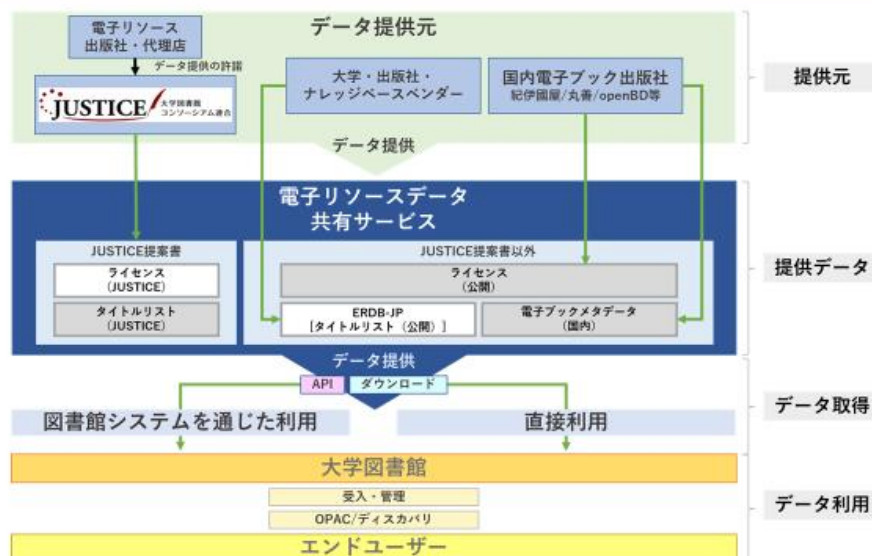
「電子リソースデータ共有サービス」とは、電子リソースのライセンス情報、タイトルリスト等を共有し、図書館での電子リソース管理業務の利便性を高めるサービスです。

[電子リソースデータ共有サービス](#) | [これからの学術情報システム構築検討委員会 \(nii.ac.jp\)](#)

現在、出版社ごとに電子リソースのメタデータや確認方法、データ形式が異なる等管理が複雑という課題があります。これを同一形式のテキストデータで一か所から取得可能にしたものが「電子リソースデータ共有サービス」で、利用者への案内に活用したり図書館内部で管理を効率化したりすることを目指しています。図のように出版社等様々な機関からデータを共有いただき、電子リソースデータ共有サービスに登録します。

## 電子リソースデータ共有サービスとは

NII



※グレーのサービスは2023年6月現在運用準備中

2023/6/12

6

中央にある通り電子リソースデータ共有サービスで扱うデータには5種類あり、白い項目が公開済み、グレーの項目は準備中です。

- ・ライセンス (JUSTICE)  
国内外の出版社・学会等から大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) に提出された提案書のうち、公開可能なライセンスに関する情報。公開済み。
- ・タイトルリスト (JUSTICE)  
上と同様のタイトルリストに関する情報。詳細は後述。準備中。
- ・ERDB-JP (タイトルリスト)  
2015年から運用しているもので日本で刊行された電子リソースのタイトルリストを大学、出版社等が共同で作成して共有。
- ・電子ブックメタデータ (国内)  
紀伊國屋書店、丸善雄松堂、openBD等から収集、統合した国内の電子ブックメタデータを共有予定。
- ・ライセンス (公開)  
一般公開可能なライセンス情報を「電子ブックメタデータ (国内)」のライセンス情報として共有を検討中。

ライセンス (JUSTICE) とは、JUSTICE提案書の内容のうち、一部をタブ区切りテキストで提供するサービスです。JUSTICE会員館向けに、現在81件を公開中です。項目と値が1対1のテキストデータで、OPAC等での利用者への公開可否も項目ごとに明記されています。なお、今後「ライセンス (公開)」も同じ形式での公開を想定しています。

[ライセンス \(JUSTICE\) | これからの学術情報システム構築検討委員会 \(nii.ac.jp\)](https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-12/erds_license_terms.pdf)

[https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-12/erds\\_license\\_terms.pdf](https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-12/erds_license_terms.pdf)

タイトルリスト (JUSTICE) とは、JUSTICE提案のタイトルリストをKBART II 形式で提供するもので、JUSTICE会員館以外にも公開する見込みです。2023年度冬頃サービスを公開予定です。

[NISO RP-9-2014, KBART: Knowledge Bases and Related Tools Recommended Practice | NISO website](#)

[データの見方 \(KBART形式について\) | ERDB-JP \(nii.ac.jp\)](#)

データ取得方法は、ライセンス (JUSTICE) はダウンロードサービスとAPI、タイトルリスト (JUSTICE) はAPIの予定です。図書館では、例えば、ライセンス情報のうち「公開可」と回答のあった項目をOPACやディスカバリーサービスで書誌詳細ページに表示し、利用者自身が利用条件を確認するため等に活用いただけます。

今後も皆様の声を反映したシステム作りを行っていく所存ですので、ぜひご意見をお寄せください。

[電子リソース共有サービスへのフィードバックのお願い | これからの学術情報システム構築検討委員会 \(nii.ac.jp\)](#)

## ■ご講演：

「電子リソースデータ共有サービスにおける『ライセンス (JUSTICE) 』の導入にあたって」  
佛教大学図書館 専門員 飯野 勝則氏より

## ○ライセンスの管理は、コンプライアンス遵守だけでなく利用者を守ることもつながる

ライセンス (JUSTICE) は、利用するために必要なライセンス情報を項目化して会員館向けに配布しているものです。内容には「図書館員のみが知っておくべき条件」だけでなく、利用者がライセンス違反を行わないように「図書館員と利用者とともに知っておくべき条件」があることに注意が必要です。

なぜライセンス情報の管理と開示が必要なのでしょう。図書館は長い間、紙の資料を丁寧に扱ってきました。著作権の遵守や資産の紛失防止のために、蔵書印、禁帯出、あるいは入館ゲートによる利用者の管理等をしてきました。

電子の資料についても、ある雑誌がどのコレクションに含まれているのか、アクセスにはIDが必要か、カバレッジ情報 (所蔵範囲) 等の情報を適切に管理する必要があります。AtoZやウェブスケールディスカバリー等を通じて利用者は様々な電子リソースを使えるようになっていますが、これは紙の雑誌が図書館の書架に並んでいて利用できる状況と同じです。図書館は、利用者が紙の雑誌を丸々コピーしたり写真を撮って共有したりしないよう管理してきたように、電子の資料に対しても管理をしなければなりません。もし図書館員も利用者もルールを十分に把握できていなければ、無知ゆえにルールを遵守できず、損害をもたらすリスクも秘めています。何か問題が起きれば、利用者ではなく管理者である学術機関が責任を問われることとなります。ですからライセンス情報が重要なのです。

管理を適切に行うことはコンプライス対応だけでなく、業務上のメリットもあります。例えば、学外の方が来館して、ある論文を読みたいと言っているとき、閲覧可能かどうかを調べるためにお待たせすることはありませんか。あるいは雑誌の閲覧権限がなくなっていることに気づいたとき、契約はどうなっているかすぐに調べられますか。アクセス情報だけでなくライセンス情報を管理すれば、こういった課題を解消できます。

次にERMSの導入についてご紹介します。ライセンス（JUSTICE）には100項目強が定義されていますが、利用者への公開可否については版元（出版社）が決定します。非公開としている項目を利用者に公開することはできません。

こちらがディスカバリーやOPACの画面例です。電子リソースごとに「利用条件を表示」というリンクがあり、クリックするとこの画面になります。

## クリックすると

National geographic. (継続後誌) 利用条件を表示

Academic Search Complete  
利用可 所蔵範囲 1995/01/01.  
最新3ヶ月 利用不可.

ライセンス条項  
承認ユーザ定義: 大学に所属する教職員・学生 (院生含む)  
その他のユーザ制限注記: N/A  
同時利用ユーザ: 同時アクセス数別の表記があるデータベース以外は、同時アクセス数無制限  
同時利用ユーザ注記: N/A  
ウォークインユーザ注記: N/A

National geographic. (継続後誌) 利用条件を表示

National Geographic Magazine  
利用可 所蔵範囲 1995.

ライセンス条項  
承認ユーザ定義: 図書館が利用を認める利用者  
その他のユーザ制限注記: N/A  
同時利用ユーザ: 無制限  
同時利用ユーザ注記: N/A  
ウォークインユーザ注記: 図書館が利用を認める利用者であれば可能

- 利用者に知ってほしいライセンス情報を開示できます。利用者によっては「**選択すべきでない**」パッケージがあるかもしれません

公開可能な項目であっても、利用者に不要と判断した項目は表示していません。図書館がどの項目を表示させるかを適切に決めることが重要です。

また、ダイレクトリンクは便利ですが、ライセンス情報を確認せずにコンテンツに推移してしまいます。本学ではオープンアクセス、パブリックドメインのデータベースのみで使っています。

図書館は利用者が「善き利用者」であるように導く必要があります。適切なライセンス管理は提供者の権利を守るだけでなく、限られた予算で適切な資産管理を実現することにもつながります。

## ■ご紹介：

### 「電子リソースデータ共有サービス連携について」

富士通Japan株式会社

パブリック&ヘルスケア事業本部 大学ソリューション事業部 垣塚 裕太氏より

## ○6月末にNII連携（ライセンス）を提供予定

多くの図書館では、電子リソースを図書館システムとは別に管理されています。図書館システムと連携していないため、管理が煩雑で属人的な業務になっているのが課題と捉えています。別管理のため例えばリンクリゾルバからOPAC上に表示することも難しくなっており、ライセンス情報を表示できず、問い合わせが増えて負担になっているとも伺っています。

富士通ではKnowledge Baseと連携したリンクリゾルバを活用した電子リソース管理を提供します。主な機能は以下の通りです。

- ・契約データの一元管理・共有
- ・最新のアクセス権取り込み（リンクリゾルバからダウンロードしてOPACで提供可能）
- ・利用者サービス向上
- ・アーカイブ権の管理（過去の情報を含む）
- ・タスク管理（作業ごとのアラート、抽出等）
- ・予算管理（複数部署での予算分割等も可能）

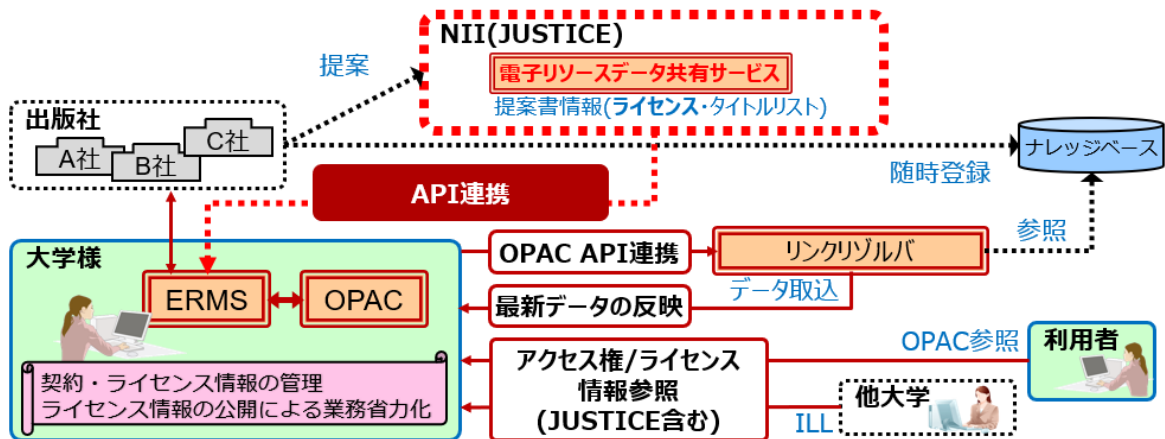
NIIのライセンス情報の連携を6月末に提供予定で、NIIのタイトルリストの連携も公開される冬以降に対応予定です。

次に電子リソースデータ共有サービスと連携したERMS機能についてご紹介します。NIIから提供されるJUSTICE提案書情報をAPIで接続してERMSとして提供します。図書館職員の方は画面から簡単に電子リソースデータ共有サービスの情報を取得、管理でき、OPACに表示することも可能です。さらにJUSTICE提案書のライセンス情報と通常契約時のライセンス情報の比較もできます。今後提供されるタイトルリスト情報は、同様に画面上から簡単に取得、管理でき、比較して契約の検討ができるほか、取得した情報を元に書誌データ等を作成してOPACで表示することができるようになる予定です。

## 01 電子リソースデータ共有サービスとの連携

FUJITSU

NII様から「電子リソースデータ共有サービス」として提供される「JUSTICE提案書関連情報のデータ共有」と連携することで、ライセンス情報やタイトルリストを取得する機能を追加します。



ERMSの想定業務フローは以下の通りです。

- 1.見積り
- 2.契約
- 3.支払
- 4.アクセス許可（開通）
- 5.リンクリゾルバデータ整備
- 6.OPAC公開

この中のステップ1～3、6をシステム化しています。実際には、契約管理・契約入力画面からNIIライセンス情報を登録するパッケージを選択するとAPIで自動的に情報が取得され、その情報を画面上で修正する流れになります（修正可能な項目と不可能な項目があります）。表示するライセンス情報の項目とその表示順はパラメータで自由に設定可能です。OPAC用等に項目を追加することも可能です。

今後、ライセンス情報とタイトルリスト情報と組み合わせて、タイトル情報も含めてOPACに表示できるようになる予定です。さらにはJUSTICE契約をしていないタイトルについては弊社のリンクリゾルバ取り込み機能をご用意しております。このように要件に応じて段階的に拡張し、組み合わせてご利用いただくことで、より適切な電子リソースの活用をご支援いたします。

## ■まとめ

講演の後、司会から参加者に質問をしたところ、ERMSを具体的に準備中の大学はまだ少ないようでした。「Excelの管理に限界を感じておりERMSの必要性を認識していますが、予算が採択されませんでした」というご意見もありました。佛教大学の飯野氏は「様々な図書館があるでしょうが、電子リソースは拡張の一途をたどっており、図書館員は利用者が正しく利用できるよう教える役割があると思います。それをシステムで効率的に管理できるのであればそれが楽なのではないでしょうか」と話されました。

閉会にあたって、明治大学の植木氏が「ERMSは飯野さんの話にあったように、利用者と図書館双方のメリットにつながる有意義な取り組みだと思います。ご所属先に持ち帰って今後の検討にご活用ください」と述べ、終了となりました。

#### 4. 参加校 [29校72名] ・参加企業等 [7社42名] ・参加総数 [114名]

亜細亜大学[3] 大阪公立大学[7] 大阪教育大学[1] 神奈川大学[3] 神奈川工科大学[1] 関西大学[5] 関西国際大学[1] 神田外語大学[2] 共立女子大学[1] 國學院大学[1]	産業能率大学[1] 芝浦工業大学[2] 上智大学[2] 大東文化大学[1] 中央大学[9] 帝京大学[5] 東海大学[2] 東京電機大学[1] 東京農業大学[1] 東京理科大学[3]	東洋大学[2] 佛教大学[1] 文京学院大学[1] 明治大学[6] 明治学院大学[1] 名城大学[1] 立教大学[5] 龍谷大学[2] 流通科学大学[1]	エイチシーネットワークス株式会社[1] 株式会社ウイズ・ケイ (共立女子大学図書館勤務) [1] 東京コンピュータサービス株式会社[3] 国立情報学研究所[1] 有限会社ハーティサービス[1] 富士通株式会社[4] 富士通Japan株式会社[31]
--	--	---	---

#### 5. 所感 (図書館分科会運営委員会)

今回は「ERMS (電子リソース管理システム) の理解、そして導入と活用」をテーマに、国立情報学研究所が提供する「電子リソースデータ共有サービス」を中心とした講演をお三方から実施いただきました。

現在、電子リソースには出版社ごとに電子リソースのメタデータや確認方法、データ形式が異なることで管理が複雑である、という課題があります。こうした課題は図書館側だけにとどまる問題ではなく、延いては利用者の利便性にも影響を与えてしまっており、非常に重要な課題となっています。「電子リソースデータ共有サービス」を活用することで、こうした課題を解決することができ、図書館と利用者双方にとっての改善に繋がるということは、多くの図書館にとって大変有意義なお話であったのではないのでしょうか。

また、すでに公開されている「ライセンス (JUSTICE)」で取り扱っているライセンス情報について、『「図書館員のみが知っておくべき条件」だけでなく、利用者がライセンス違反を行わないように「図書館員と利用者がともに知っておくべき条件」がある』、というお話がありました。図書館が情報を保持するだけでなく、利用者に正しく・わかりやすく伝えることが非常に重要だということを改めて認識できました。

こうしたERMSを活用して電子資料の管理を充実させ、利用者によりわかりやすく提供していくことが、これからの情報化社会で求められる図書館の役割になってきているのではないのでしょうか。

今回の分科会にご参加いただいた皆さまの今後の活動の一助になりますと幸いです。多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

#### 【分科会の様子】



#### 【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果 (抜粋版) を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

#### 「CS研・IS研情報交換サイト」について

○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。

(新規入会・サイトのご利用をご希望の方は、右下の事務局までご連絡ください。)

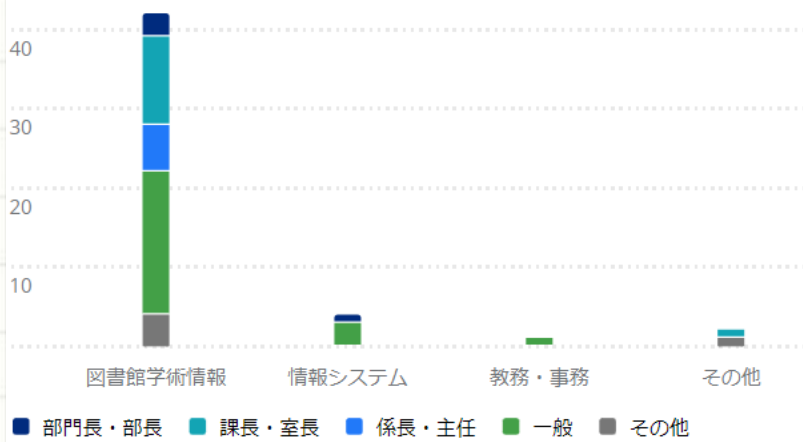
URL : <https://csis.ufinity.jp/shared>

#### 【連絡先】

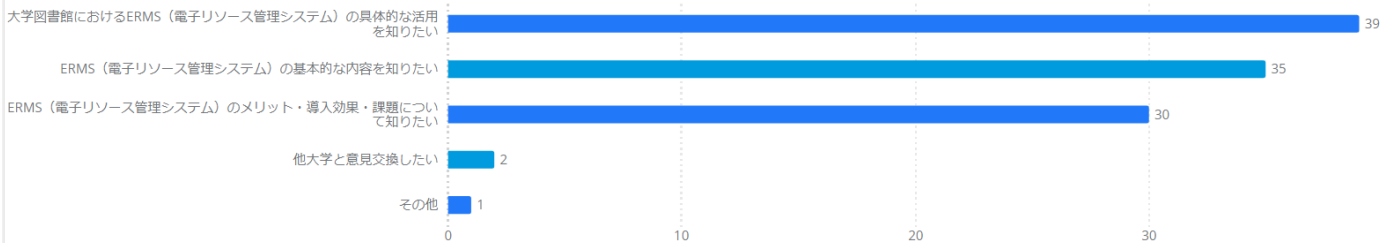
私立大学キャンパスシステム研究会 事務局  
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター  
富士通株式会社 Japanリージョン 戦略企画統括部内  
E-mail : [contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com](mailto:contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com)

# 開催後アンケート結果【回答数／対象者数：49／72（大学関係者のみ）】

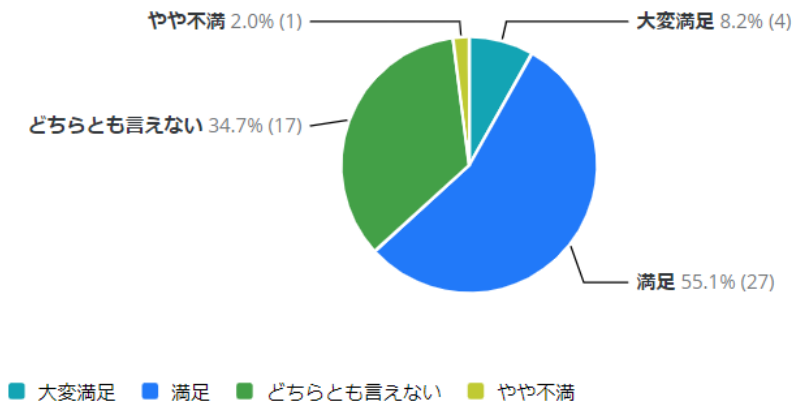
## ■ 担当業務と役職について



## ■ 参加した目的について



## ■ 本日の分科会の全体満足度について

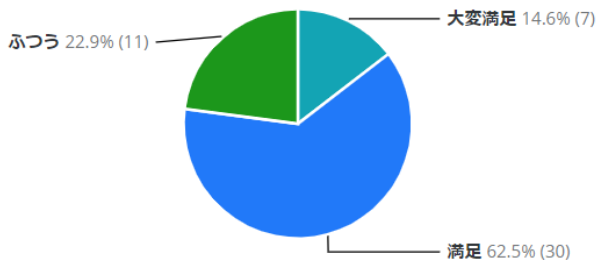




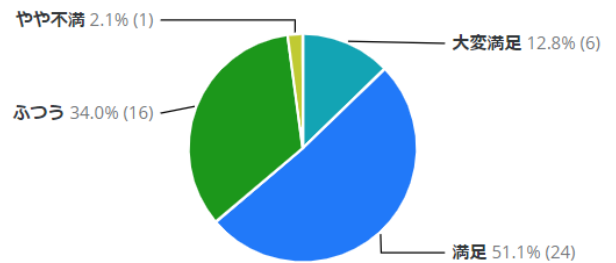
## ■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

- 電子リソース管理システム全般的な説明をしていただき、大変勉強になった。
- 電子資料関連の学術情報の管理、共有に関して、包括的に学ぶことができた。
- 佛教大学様のお話が大変分かりやすく参考になった。
- 初心者にも説明わかりやすかった。
- ERMSの導入状況についての把握ができた
- ERMSの活用法がわからず導入に積極的ではなかったが、使いこなせばメリットが大きいと理解できた。
- 内容は大変充実していたと思う。
- 大学図書館におけるERMSの事例や基本的な内容を知ることが出来たので。
- ERMSの必要性やニーズを感じることができた
- ERMSの（電子リソース管理システム）について、具体的な説明を拝聴し、今後の業務に役立てられそう。
- 概要は把握していたので、実際にiLisでどうなるのかを知りたかったのでその点把握することができた
- 電子リソース管理システム自体がよく分かっておらず、概要から教えていただき参考になった。
- NII、大学、ベンダーとそれぞれの立場からの説明が簡潔に具体的に理解できたため。
- NIIの情報提供の進捗が確認できたこと・実際のiLisの画面イメージが見られたこと
- ERMSの導入目的や活用事例がいまいちピンと来ていなかったが、今回の発表でライセンス情報管理などの用途がイメージできた。
- ERMSの具体的な活用事例が吸収しきれなかったから。
- すでに受講したことのある内容ばかりであったため
- ERMSのデメリットが挙げられていなかった。より多面的な理解をしたかった。

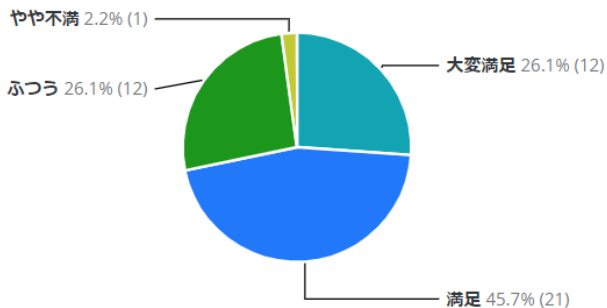
## ■満足度－開催テーマについて



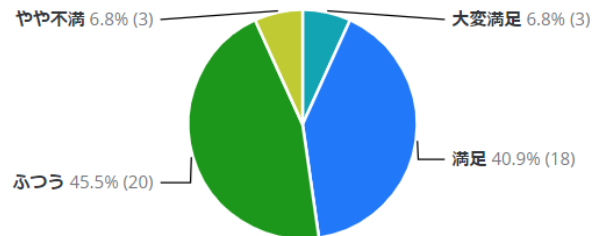
## ■満足度－国立情報学研究所様ご講演について



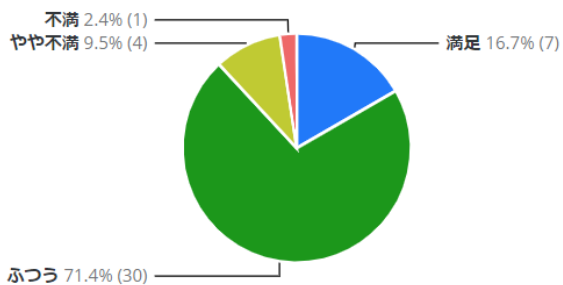
## ■満足度－佛教大学様ご講演について



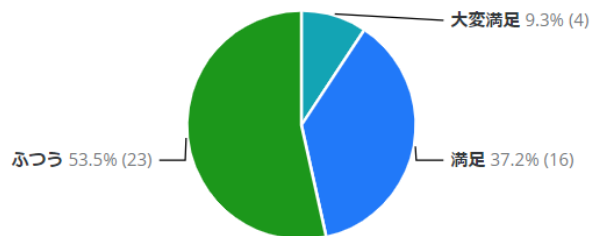
## ■満足度－富士通Japan様ご講演について



### ■ 満足度－意見交換・質疑について



### ■ 満足度－当日の運営について



### ■ 今後、CS研で取り上げて欲しいテーマについて（一部省略・抜粋）

- AIの活用について。
- DXにおける私立大学での導入事例報告  
(どの大学にも汎用的に導入が考えられるもの、もしくは同規模大学であれば導入を検討できるもの)
- DXの先行事例とかがいことより、そもそもの基礎的なDXについての理解を深めるようなテーマでの研修を実施してほしい。
- 図書館業務や図書館利用に係わる環境改善等、DX連動のテーマや事例発表などお聞きしたい。
- ChatGPTの積極的・ポジティブな活用方法と留意点について
- ResourceSyncについて

### ■ CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 十分なイベント内容だと思います。
- 講演資料のURLをまだ確認していませんが、講演の録画について公開していただけると嬉しいです。
- ディスカッションがもっと活性化できるとよい。オンラインは便利だが、社会的ハードルも下がったので、図書館見学とセットにした対面実施も検討してはかがか。
- いつも魅力あるイベントを実施頂きありがとうございます。
- CS研および貴社主催のセミナーについて、日程的に出席できない場合のアーカイブ配信をお願いしたい。